



須賀神社の懸想文売り。身分を隠して庶民の恋文を代筆したのが始まりとか。



須賀神社向かいの聖護院の節分会では大勢の山伏たちによる読経が響き渡る。



祇園甲部・祇園東・先斗町・宮川町の舞妓さんが時間割で舞踊と豆まきを行う。



参道には800店も屋台が並ぶ吉田神社の節分祭。他人のスマホで様子を確認。撮影するには4時間は待つ覚悟がないと難しい。

節分は立春の前日で、旧正月の大晦日だ。明治以降に旧暦が新暦となり、今も中国では春節（旧正月）として前後が連休になる。日本では節分といえば鬼を追い払う豆まきだ。祇園の八坂神社では芸舞妓が豆まきをするが、お化けも出てくる。実は京都の花街では節分の夜、仮装して芸妓が客をもてなす風習がある。男性客が女装することもある。江戸時代に始まった行事で、邪気を追い払うためだという。まさに日本のハロウィンだ。伝統文化としては節分に仮装するのが正しいのではないか。

ちなみに京都ではあちこちで節分の豆まきがあるが、実は節分祭で有名な吉田神社では豆まきがない。代わりに宮中伝来の追儼式があり、四つ目の仮面を被った方相氏（中国由来の鬼神）が赤鬼黄鬼青鬼を退治する。昼すぎから観光客が場所取りに詰めかけるので、最前列の見物には忍耐が必要だ（私にはありません）。聖護院前の須賀神社の節分祭もおすすめしたい。ユニークないでたちの懸想文売りから福をもらおう。



八坂神社の節分で登場したお化け。芸妓さんが歌舞伎役者の扮装をして豆をまく。

暮らす旅 京都 ニューイヤーズイブいろいろ

文・写真／松岡伸吾（暮らす旅舎）

ハロウィンと大晦日と節分は、新年を迎える前日という共通点がある。近年のハロウィンは若者が仮装して大騒ぎのイメージだが、本来は仮装した子供たちが、近隣を回り「トリック・オア・トリート」を合言葉にお菓子をもらう行事だった。個人的には日本の高校生がアメリカカリフォルニア州の住宅地で銃殺された痛ましい事件を思い出してしまふのだが。

ハロウィンは2千年前にアイルランドにいたケルト人の収穫祭サウインが起源だ。10月31日がケルト人の一年の終わりで、収穫を祝い、戻ってくる死者の霊を迎えた。しかし一緒にやってくる悪霊を追い払うために怖い仮装をしたという。翌日が新しい年の始まりで、まさに大晦日を祝う祭りだった。

11月1日は4世紀頃、キリスト教ですべての聖人と殉教者を記念する諸聖人の日（All Hallows' Day 昔は万聖節と呼んだ）となり、その前日がハロウィンとなった。日本には戦後、進駐軍の家族によってもたらされ、やがてバレンタインデーと共に商業的イベントとして広まった。ただ近年のような大騒ぎになったのは、21世紀以降では